

MIC Worship Service – 2025.04.06

Title: “The King Who Comes in Humility”

Text: Matthew 21:1~11, NIV

MIC 礼拝 - 2025.04.06

『謙虚な王となって』

聖書箇所：マタイによる福音書 21 章 1~11 節（新改訳）

¹ As they approached Jerusalem and came to Bethphage on the Mount of Olives, Jesus sent two disciples, ² saying to them, “Go to the village ahead of you, and at once you will find a donkey tied there, with her colt by her. Untie them and bring them to me. ³ If anyone says anything to you, say that the Lord needs them, and he will send them right away.”

⁴ This took place to fulfill what was spoken through the prophet: ⁵ “Say to Daughter Zion, ‘See, your king comes to you, gentle and riding on a donkey, and on a colt, the foal of a donkey.’”

⁶ The disciples went and did as Jesus had instructed them. ⁷ They brought the donkey and the colt and placed their cloaks on them for Jesus to sit on. ⁸ A very large crowd spread their cloaks on the road, while others cut branches from the trees and spread them on the road. ⁹ The crowds that went ahead of him and those that followed shouted, “Hosanna to the Son of David!”

“Blessed is he who comes in the name of the Lord! Hosanna in the highest heaven!”

¹⁰ When Jesus entered Jerusalem, the whole city was stirred and asked, “Who is this?” ¹¹ The crowds answered, “This is Jesus, the prophet from Nazareth in Galilee.”

1 それから、彼らはエルサレムに近づき、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来た。そのとき、イエスは、弟子をふたり使いに出して、2 言われた。「向こうの村へ行きなさい。そうするとすぐに、ろばがつながれていて、いっしょにろばの子がいるのに気がつくでしょう。それをほどこいて、わたしのところに連れて来なさい。3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。」

4 これは、預言者を通して言われたことが成就するために起こったのである。5 「シオンの娘に伝えなさい。『見よ。あなたの王があなたのところに来られる。柔和で、ろばの背に乗って、それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』

6 そこで、弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにした。7 そして、ろばと、ろばの子

とを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。8 すると、群集のうち大ぜいの者が、自分たちのの上着を道に敷き、また、ほかの人々は、木の枝を切って来て、道に敷いた。9 そして、群集は、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。

「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。」

10 こうして、イエスがエルサレムに入られると、都中がこぞって騒ぎ立ち、「この方は、どういう方なのか」と言った。

11 群集は、「この方は、ガリラヤのナザレの、預言者イエスだ」と言った。

MAIN IDEA: Jesus enters Jerusalem not as a conquering warrior but as the humble King who brings salvation.

この箇所の要点：イエスは征服する戦士としてではなく、救いをもたらす謙虚な王としてエルサレムに入城しました。

Introduction

はじめに

Palm Sunday marks the beginning of Holy Week, the most significant week in history. It is the day Jesus entered Jerusalem, fulfilling prophecy and revealing His true identity.

棕ろの日曜日は、歴史上最も重要な聖なる一週間の始まりの日です。イエスがエルサレムに入城され、預言を成就し、ご自身の真の姿を現された日です。

But He did not come as many expected—riding a mighty warhorse with an army behind Him. Instead, He came humbly on a donkey, showing that His kingdom is unlike any earthly reign.

しかし、イエスは、多くの人々が期待し想像していたように、軍勢を従えて力強く軍馬に乗って登場したわけではありませんでした。その代わりに、イエスは口バに乗って謙虚な姿で登場しました。それは、イエスの王国が地上を支配する王国とは異なるものであることを人々に示していました。

What does this tell us about Jesus, and what does it mean for us today?

では、このことがイエスについて何を語っているのか、そして現代の私たちにとって何を意味するのでしょうか。

ILLUSTRATION: Imagine a presidential motorcade entering a city—police escorts, security details, and luxury vehicles.

ここで皆さんに、警察の護衛、あらゆる警備、豪華な車など、大統領を乗せた車列が街に入っていく様子を想像してみて欲しいと思います。

Now picture a leader arriving on a bicycle instead. That contrast captures the essence of Jesus' triumphal entry—He came not with worldly power, but with divine humility.

次に、その代わりに、自転車で登場する指導者の姿を思い浮かべてみてください。この対比（違い）こそが、イエスの凱旋の本質を捉えているのです。イエスはこの世の力をもってではなく、神の謙虚さをもって入城されたということなのです。

I. Jesus the King Fulfills Prophecy - vv. 1~5

I. 王であるイエスは預言を成就された-1~5 節

"Say to Daughter Zion, 'See, your king comes to you, gentle and riding on a donkey, and on a colt, the foal of a donkey.'" (Matthew 21:5, quoting Zechariah 9:9)

5 「シオンの娘に伝えなさい。『見よ。あなたの王があなたのところに来られる。柔和で、ろばの背に乗って、それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』（マタイによる福音書 21 章 5 節、ゼカリヤ書 9 章 9 節参照）

As Jesus approaches Jerusalem, He instructs His disciples to bring Him a donkey.

エルサレムに近づいたイエスは、弟子たちにロバを連れてくるように指示しました。

This was not an arbitrary decision. It was a deliberate fulfillment of Zechariah's prophecy, written centuries earlier.

これは、イエスが思いつきで決めたことではありません。何世紀も前に書かれたゼカリヤの預言が成就しているのです。

- The people expected a military Messiah, but Jesus came as a Servant-King.
 - His choice of a donkey symbolized peace rather than war.
 - His kingdom is established not by force, but by sacrifice (Isaiah 53:5~7).
-
- 人々は、軍事的に支配をするメシア（救世主）の登場を期待していましたが、イエスは僕（しもべ）のような王となって登場したのです。
 - イエスがロバに乗って入城することを選んだのは、戦争ではなく、平和を象徴したかったからです。
 - イエスの王国は力によってではなく、犠牲によって築かれます。（イザヤ書 53 章 5~7 節 参照）

Isaiah 55:8 - *"For my thoughts are not your thoughts, neither are your ways my ways, declares the LORD."*

イザヤ書 55 章 8 節—8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。一主の御告げ—

ILLUSTRATION: Think of a child expecting a large, extravagant gift but receiving something simple yet deeply meaningful.

さてここで、豪華で大きな贈り物をもらうことを期待していた子どもが、シンプルなものですが深い意味のある贈り物を受け取ったと想像してみてください。

Often, we expect God to act in a grandiose way, but His ways are often unexpected and greater than we can imagine.

私たちはしばしば、神が壮大な方法で物事を起こしてくださると期待しますが、神の方法は時として予期せぬものであり、私たちの想像を超えるものなのです。

APPLICATION: We must align our expectations with God's plan, not the other way around.

適用：私たちの期待は、神の計画に沿うようなものでなければいけないのです。神の計画を、私たちの願い通りにしようとしてははいけません。

Jesus came to bring peace with God, not temporary political power. Do we receive Him for who He truly is?

イエスは、神との平和を私たちにもたらすためにこの世に来られたのであって、一時的な政治的権力をもたらすために来られたものではありません。そうであるならば、私たちはイエスを本当の意味で受け入れることが出来ているのでしょうか？

II. Jesus the King Is Worthy of Praise - vv. 6~9

II. 王であるイエスは称賛に値する - 6~9 節

"The crowds that went ahead of Him and those that followed shouted, 'Hosanna to the Son of David! Blessed is He who comes in the name of the Lord!'" (Matthew 21:9)

そして、群衆は、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。」（マタイによる福音書 21 章 9 節）

The crowd recognized Jesus as the Son of David, a Messianic title. Their cry, ***"Hosanna,"*** means ***"Save us now!"***

この箇所では、群衆がイエスをメシアの称号である『ダビデの子』と認めています。彼らの叫び、「ホサナ」とは、「**私たちを救ってください！**」という意味です。

Yet, within days, some of these same voices would shout, ***"Crucify Him!"*** (Matthew 27:22).

しかし人々は、数日も経たないうちに、「私たちを救ってください！」と叫んだのと同じ声で、「**イエスを十字架につけろ！**」と叫ぶようになってしまうのです。（マタイによる福音書 27 章 22 節）

A. Many praised Jesus with their lips, but not with their hearts.

A. 多くの人々が、口ではイエスを称賛したが、心から称賛していなかった。

Isaiah 29:13 - *The Lord says: "These people come near to me with their mouth and honor me with their lips, but **their hearts are far from me**. Their worship of me is based on merely human rules they have been taught.*

イザヤ書 29 章 13 節—13 そこで主は仰せられた。「この民は口先で近づき、くちびるでわたしをあがめるが、**その心はわたしから遠く離れている**。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことにすぎない。

B. They wanted a king who would meet their immediate needs, not one who would deal with their sin.

B. 彼らが望んだのは、自分たちの罪を計らってくれる王ではなく、目の前の必要を満たしてくれる王だった。

John 6:26 - *Jesus answered, "Very truly I tell you, you are looking for me, not because you saw the signs I performed but because you ate the loaves and had your fill.*

ヨハネの福音書 6 章 26 節—26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたはわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。

C. Jesus is worthy of praise, not just in times of excitement, but in all circumstances.

C. 私たちが感動した時だけ称賛するのではなく、イエスはあらゆる状況において称賛に値する。

1 Thessalonians 5:16~18 - ¹⁶ *Rejoice always,* ¹⁷ *pray continually,* ¹⁸ **give thanks in all circumstances;** *for this is God's will for you in Christ Jesus.*

テサロニケ人への手紙 第一 5章16 - 18節—16 いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 **すべての事について、感謝しなさい。**これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

John 4:24 - *God is spirit, and his worshipers must worship in the Spirit and in truth.*

ヨハネの福音書 4章24節—24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。

ILLUSTRATION: A sports team wins a championship, and the fans celebrate enthusiastically. But when the team struggles the next season, many fans disappear.

ここで想像してみてください。

あるスポーツチームが優勝し、ファン達は熱狂的にお祝いしています。しかし、次のシーズンになってそのチームが苦戦していると、多くのファンたちはいつのまにか去っていってしまいます。

True followers of Jesus do not praise Him only when things go well but **remain faithful through all seasons.**

イエスに従う真の従者たちは、物事がうまくいっているときだけイエスを称賛するのではなく、**どんな時でも忠実であり続けます。**

APPLICATION: Are we worshiping Jesus only when things go well, or do we follow Him even when His ways are different from what we expect?

適用: 私たちは、物事がうまくいっているときだけイエスを賛美しているのではないのでしょうか？それとも、イエスのやり方がたとえ私たちの期待とは違っていても、イエスに従い続けることができているのでしょうか？

True worship is surrendering to His kingship in all areas of life.

真の賛美とは、私たちの人生のすべてをイエスの王権に委ねることなのです。

III. Jesus the King Confronts Our Hearts - vv. 10~11

III. 王であるイエスは私たちの心に向き合う - 10~11 節

¹⁰ *When Jesus entered Jerusalem, the whole city was stirred and asked, “Who is this?”* ¹¹ *The crowds answered, “This is Jesus, the prophet from Nazareth in Galilee.”*

10 こうして、イエスがエルサレムに入られると、都中がこぞって騒ぎ立ち、「**この方は、どういう方なのか**」と言った。

11 群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレの、預言者イエスだ」と言った。

Jesus' entrance into Jerusalem forced people to ask, *“Who is this?”*

イエスがエルサレムに入城したことによって、人々は「**この方は、どういう方なのか**」と聞かざるを得なくなったのです。

Some saw Him as a prophet, others as a political threat, but only a few understood He was **the promised Messiah**.

そして、ある者はイエスを預言者と見なし、ある者はイエスを政治的な脅威とみなしました。しかし、イエスが**約束されたメシア**であることを理解している者はごくわずかでした。

A. Jesus' coming always demands a response.

A. イエスの入城（来臨）によって私たちは常に応えを求めらることになる

C.S. Lewis (*Mere Christianity*): **"You must make your choice.** Either this man was, and is, **the Son of God**, or else a madman or something worse. You can shut Him up for a fool, you can spit at Him and kill Him as a demon, or you can fall at His feet and call Him Lord and God. But let us not come with any patronizing nonsense about His being a great human teacher. He has not left that open to us. He did not intend to."

C.S.ルイス（著書『キリスト教の精髓』から）：「**あなたは選択しなければならない。**その人が**神の子**であるか、そうでないか、あるいは狂人か、もっと悪い何者かか。彼を愚か者として黙らせるか、彼に唾を吐きかけ、悪魔として殺すか、あるいは彼の足元にひれ伏し、彼を主、神と呼ぶか。しかし、彼が偉大な人生の師であるなどという恩着せがましい戯言を言ってはならない。彼はそのようなことを私たちに決めろとは言っていない。そんなつもりはなかったのだ。」

John 14:6 - *Jesus answered, "I am the way and the truth and the life. No one comes to the Father except through me.*

ヨハネの福音書 14章6節—6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

B. Some welcome Him joyfully, while others reject Him.

B. ある者は喜んでイエスを迎え入れ、ある者はイエスを拒絶する

John 1:11~12 - ¹¹ *He came to that which was his own, but his own did not receive him.* ¹² **Yet to all who did receive him,** *to those who believed in his name, he gave the right to become children of God—*

ヨハネの福音書 1章11—12節—11 この方はご自分のくにに来られたのに、**ご自分の民は受け入れなかった。**12 **しかし、この方を受け入れた人々、**すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

Our eternal destiny depends on how we answer the question: **"Who is Jesus?"**

私たちの永遠の運命は、「**イエスとは、どういう方なのか？**」という質問に、私たちがどう答えるのかにかかっているのです。

Acts 4:12 - ***Salvation is found in no one else, for there is no other name under heaven given to mankind by which we must be saved.***

使徒の働き 4章12節 —12 **この方以外には、だれによっても救いはありません。** 天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」

ILLUSTRATION: If you receive an official letter with an important message but never open it, you miss out on its significance.

ここで想像してみてください。

重要なメッセージが書かれた公式な手紙を受け取ったにもかかわらず、それを開くことをしなければ、そのメッセージがどんなに大切だったのかを見逃してしまうことになります。

Many people hear about Jesus but never truly respond to His call.

多くの人は、イエスのことを耳にすることはあっても、イエスの呼びかけに本当に応じることはありません。

APPLICATION: Have you truly recognized Jesus as your King? Not just as a teacher or a miracle-worker, but ***as Lord over your life?***

適用: あなたは、イエスを王として本当に認めていますか？単にイエスを師として、または奇跡を起こす人として見るのではなく、あなたの**人生を支配する主として**認めているのでしょうか？

The way we live reflects our answer.

私たちの生き方が、その答えを反映しているのです。

Conclusion

結論

On Palm Sunday, Jesus entered Jerusalem humbly, yet triumphantly. He fulfilled prophecy, received praise, and confronted people with the truth of His identity.

棕櫚の日曜日、イエスは謙虚に、しかし勝利を掲げながらエルサレムに入城されました。そしてイエスは預言を成就し、称賛を受け、ご自身が誰であるかという真実を人々に突きつけたのです。

But some people in the same crowd that welcomed Him with **“Hosanna”** would soon reject Him.

しかし、「**ホサナ**」と叫びながらイエスを歓迎した群衆の中には、後にイエスを拒絶する者もいました。

The question remains for us today: *Will we truly follow the humble King, or only admire Him from a distance ?*

現代の私たちにも次のような疑問が残ります。わたしたちは謙虚な王に本当に従っているのでしょうか、それとも遠くから称賛しているだけなのでしょうか。

Matthew 16:24 - *Whoever wants to be my disciple must deny themselves and take up their cross and follow me.*

マタイの福音書 16章24節—24 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

As we go through this Lenten season, let's reflect on ***Jesus' humility and kingship.***

May we not just wave palm branches, but surrender our hearts to Him fully.

Let us proclaim, not just with our words, but with our lives: **Jesus is King!**

この四旬節を過ごすにあたり、**イエスの謙虚さと王としての権威**について考えてみましょう。

ただ棕櫚の枝を振るだけではなく、私たちの心を完全にイエスに委ねることができますように。

言葉だけでなく、私たちの人生を通して「**イエスは王です！**」と宣言しましょう。